

平成30年度

全国高校野球OBクラブ連合総会 議事録

日 時 2018年11月 9日(金曜日) 13:30~16:00

場 所 ホテルヒューイット甲子園・鳴尾の間(1階)

議 題

- 1) 平成29年度全国高校野球OBクラブ連合事業報告
 - 資料1-1: 全国高校野球OBクラブ連合加盟校一覧
 - 資料1-2: マスターズ甲子園2017本大会プログラム
 - 資料1-3: 全国高校野球OBクラブ連合2017年度決算・監査報告
 - 資料1-4: マスターズ甲子園実行委員会2017年度決算・監査報告
- 2) 平成30年度全国高校野球OBクラブ連合事業報告
 - 資料2-1: 全国高校野球OBクラブ連合加盟校一覧
 - 資料2-2: マスターズ甲子園2018本大会プログラム
 - 資料2-3: 全国高校野球OBクラブ連合2018年度途中決算報告
 - 資料2-4: マスターズ甲子園実行委員会2018年度途中決算報告
- 3) マスターズ甲子園2018-2019シリーズ
 - 資料3-1: 2018-2019シリーズ・追加枠募集結果
 - 資料3-2: 2018-2019シリーズ・追加枠抽選方法について
- 4) 平成31年度全国高校野球OBクラブ連合事業案
 - 資料4-1: マスターズ甲子園2019本大会プログラム案
 - 資料4-2: 全国高校野球OBクラブ連合2019年度予算案
 - 資料4-3: マスターズ甲子園実行委員会2019年度予算案
- 5) 2020年以降のシリーズ計画について
 - 資料5-1: マスターズ甲子園2020-2022シリーズ
- 6) その他
 - マスターズ甲子園2019申請枠組み合わせ抽選会
 - マスターズ甲子園2019追加枠確定および組み合わせ抽選会

○定刻より全国高校野球OBクラブ連合 長ヶ原 誠 理事長(以下、理事長と称す)の司会で、平成30年度総会開催のあいさつを行い総会を開催した。

- 1、全国高校野球OBクラブ連合 樽谷清太郎 特別顧問 挨拶。
全国高等学校野球選手権大会も100回を迎え盛大に開催されました。マスターズ甲子園2018大会も素晴らしい大会にする為に皆様の協力をお願いしたい。皆さんで協力して成功させまじょうと陳べられた。
- 2、定足数の確認。
理事長より、加盟都道府県41、総会出席26、委任状受理15、総数41との報

告で、総会出席者26であるので、全国高校野球OBクラブ定款30条の総数の3分の1以上の出席があり、本総会は成立するとの報告があり承認された。

3, 議長選出。

理事長より自薦・他薦により推薦を求め、東京都・酒井様より理事会一任との事で、理事会より高山理事(神奈川県)(以下、議長と称す)を議長として選出し承認した。

4, 議題確認。

議長が席に着き議題の確認をして議事進行に入る。

○議 題

1. 議題1、平成29年度全国高校野球OBクラブ連合事業報告

○資料1-1:全国高校野球OBクラブ連合加盟校一覧

○資料1-2:マスターズ甲子園2017本大会プログラム

理事長より平成29年12月31日現在、40都道府県619校の加盟であり、今年度の新規加盟都道府県は、北海道、長野県・愛知県・和歌山県の4道県が新規加盟し、2017予選大会は16リーグ379校の参加で地方予選大会が開催され、11月11日12日に大会プログラム通り無事に終了したとの報告で承認された。

○資料1-3:全国高校野球OBクラブ連合2017年度決算・監査報告

○資料1-4:マスターズ甲子園実行委員会2017年度決算・監査報告

1-3, 理事長より収入合計5,660千円(新規加盟670千円・会費4,990千円)支出は、マスターズ甲子園補助金3,940千円、連合運営費等1,050千円で残り670千円(新規加盟費)は積立金に充当したとの報告に続き、1-4, マスターズ甲子園実行委員会2017年度決算では、理事長より収入21,465,184円、で内訳は、連合補助金(3,940千円)、参加料(8,000千円)、キャッチボール(1,060千円)、共催・協賛金(5,000千円)、広告・寄付・助成金(1,263千円)、収益金(2,103千円)であり、支出合計は21,465,184円で内訳は、球場費(9,751千円)大会運営費等(11,679,687円)で34,047円の次年度繰越金の報告がされた。

監査報告に進み、監査役の北野賀大氏より帳票等を精査した結果、適正に処理されている事の報告がされた。

質疑応答

埼玉県、野澤様より、加盟費用、年会費は全て振り込んでいるのかとの質問。

理事長より8チームを満たしてリーグが設立されている所が対象であり、現時点で全ての入金を確認されているとの説明で承認された。

2. 議題2、平成30年度全国高校野球OBクラブ連合事業報告

○資料2-1：全国高校野球OBクラブ連合加盟校一覧

○資料2-2：マスターズ甲子園2018本大会プログラム

理事長より平成30年11月9日現在、41都道府県650校の加盟であり、今年度の新規加盟都道府県は、香川県が新規加盟し、2018予選大会は新規加盟の4道県を含めて16リーグで地方予選大会が開催されたとの報告。

資料2-2の説明で、例年通り2日間8試合の試合日程、選手宣誓は熊本県代表の多良木高校OB会の山村様親子で行う事の説明で、多良木高校は現役を含めて初めての甲子園出場との説明と、高校野球100周年、大会ガイドブックの説明、100周年ページの紹介、シールの配布、高校野球手帳の配布等を説明と、又、今回大会ポスターの発送が遅れてしまった事の説明と謝罪を理事長が行い承認された。

○資料2-3：全国高校野球OBクラブ連合2018年度途中決算報告

○資料2-4：マスターズ甲子園実行委員会2018年度途中決算報告

2-3、理事長より収入合計5,940千円（新規加盟350千円・会費5,590千円）支出は、マスターズ甲子園補助金4,540千円、連合運営費等1,050千円で残り350千円（新規加盟費）は積立金に充当との報告に続き。

2-4、マスターズ甲子園実行委員会2018年度途中決算では、理事長より収入24,378,884円、で内訳は、連合補助金（4,540千円）、参加料（8,000千円）、キャッチボール（1,060千円）、共催・協賛金（7,500千円）、広告・寄付・助成金（1,200千円）、収益金（1,980千円）であり、支出合計は24,378,884円で内訳は、球場費（9,750千円）大会運営費等（14,628,884円）で268,884円の次年度繰越金の途中決算報告がされて、今回からパナソニック株式会社が協賛社に加わった経緯の説明と、今年度は300万円の協賛金であるが、次年度以降は150万円となる可能性の説明がされ、経費内訳として大会事務局経費、印刷費等の増加分に充当する説明があり承認された。

3. 議題3、マスターズ甲子園2018-2019シリーズ

○資料3-1：2018-2019シリーズ・追加枠募集結果

資料3-2：2018-2019シリーズ・追加枠抽選方法について

3-1、理事長より2019年大会の出場枠の説明で、すでに決定している11リーグの確認と今年度の8校以上の新規加盟都道府県は無いとの説明により、追加枠としての募集の結果16リーグより申し込みがあった事の報告があった。

3-2、抽選方法の説明で加盟校数に勘案した抽選票と高野連加盟校数に対する全国高校野球OBクラブ連合加盟校数の60%以上1票を追加した票数で行い、

追加枠の確定を行うとの説明で承認された。

4. 議題4、平成31年度全国高校野球OBクラブ連合事業案

○資料4-1：マスターズ甲子園2019本大会プログラム案

理事長より大会実施日の件で甲子園球場との事前の打ち合わせで、2019年度は11月9日・10日で予備日は12月3日の予定で、決定は2018年3月初旬になるとの事で、その他の事は例年通りの2日間、8試合で開催するとの説明で正式決定になった時点で再度報告させて頂く事との説明があった。

質疑応答

鹿児島県 村崎様より、OB連合の事業内容は15年間マスターズ甲子園だけで、何も変わっていないのではないかと。定款に記された目的を果たすために、他の事業はやらないのか。加盟校が増えているのに、何か違う事業はないのか。理事会はその部分をどう考えているのか、とのご質問。

理事長より、本大会だけでなく、予選大会までを一事業として報告する必要があり、今後の総会で状況を報告して行くとの説明。

議長より、予選大会等で実施している具体的な活動を各都道府県から報告を求める。

徳島県、浅山様より、徳島県の予選大会では献血活動やヒットの本数に対する寄付金などの実施。OBクラブ連合は大きな団体なので、意思の決定が難しいとは思いますが、もしOB連合として何か活動をするのであれば徳島県は賛同したいとのご意見があり。

長野県、池口様より、子供達の野球離れをどうにかしたい。子供の野球離れを防ぐための事業をOB連盟が中心となって、社会人野球チームとの合同野球教室や少年野球チームに所属している子供のお母さん向けに、スコアブック教室などの取り組みをしているとの報告があり。

議長より、すべての議題終了後に改めて各都道府県より報告と審議を行うとの事で継続審議とする事で承認された。

○資料4-2：全国高校野球OBクラブ連合2019年度予算案

○資料4-2：マスターズ甲子園実行委員会2019年度予算案

4-2、理事長より2018年度の間接決算を踏まえて2019年度の予算計画

の説明で、収入合計5,940千円（新規加盟費350千円・年会費5,590千円）支出合計5,940千円（大会補助費4,540千円・事務局運営費1,050千円）積立金350千円の予算案の説明に続き。

4-3、理事長より2018年度の間接決算を踏まえて2019年度の予算計画の説明で、収入合計23,108,884円（前年度繰越金予定含む・共催・協賛・広告・寄付・助成金等前年同様の計画）支出合計23,108,884円（球場費・大会運営費・事務局費等）の説明で、2018年度の途中決算報告での説明のパナソニック株式会社の協賛金の説明と現状の各協賛社等への継続要請と新規協賛社への活動を行っていく事の説明をして承認された。

5. 議題5、2020年以降のリーグ計画について

○資料5-1：マスターズ甲子園2020-2022シリーズ

理事長より、現行の2年シリーズを過去2回の総会及び理事会に於いて議論を重ね、継続審議としていた2020年以降の3年シリーズへの移行の説明があり、現状1日4試合の日程を甲子園球場との交渉の結果、1日5試合に変更を了承して頂いた事の説明があり、事前に理事会を通して各加盟校への打診を経て2020年度より1日5試合の2日間開催の3年シリーズへの変更の説明と、具体的な出場枠の選択方法の説明があり、各都道府県は2020年、2021年の申請枠を確定させて、2021年の残り部分を追加枠として抽選にて決定する事。新規加盟都道府県に於いては現状通り当該年度に優先にて出場資格を与える事と、今後の新規加盟状況を勘案してブロック枠を設けて、各ブロックの優勝チームに出場資格を与える事とブロック代表チームは単独OB高校を原則とする事の説明をして、申請枠、追加枠、ブロック大会枠で構成されて3年に2回もしくは3回の出場チャンスがある事の説明をした。

質疑応答

○群馬県 中島様より、群馬県では2年に1度の甲子園に出場を考えているので、申請枠の申請段階で選択する事が出来るのかとの質問があり。

理事長より、申請枠の申請年度は今まで通り選択は可能であり、基本原理は今まで通りとの説明をした。

○徳島県、浅山様より、3年に1回の出場もありえるのかとの質問があり。

理事長より、現状の27リーグであれば、各都道府県単独チームで3年に2回の出場は可能だが、各ブロック理事からの新規リーグの動きを考慮すると、2回追

加枠募集を行う方法がベスト、ブロック枠を入れる事で3年に2回目指す事を担保する。又、ブロック大会のブロック代表チームについては各ブロックに選出は委ねる事と、同じ大会に1つの都道府県から複数の代表が出場する事も可能との説明を2013年の鹿児島県の例を挙げて説明した。

- 東京都 藤田様より、2022大会の追加枠の申請希望が出来るのは、2021大会追加枠で出場が決まったリーグ意外という認識で間違っていないかとの質問があり。

理事長より、2022大会の追加枠に申請できないのは2021大会追加枠を獲得した都道府県リーグで間違いないとの説明をした。

議長が質問が無い事を確認して承認された。

6. その他

①議題4の各都道府県からの報告についてと2019年事業案についての審議

- 東京都 佐藤様より、東京都では審判講習会やリーグ設立10周年記念行事の開催を行った。加盟校の数を増やす為にエール交換、2020年以降については、東京リーグとして新たな事業を行っていく予定との説明があり。
- 鹿児島県、村崎様より、各都道府県の活動はわかったが、OB連合として何をやっていくのかを聞きたい。全国に認められるように何か行うのかとの質問があり。
- 埼玉県、野澤様より、関東ブロック理事会9月15日に行った。各ブロックでの協議内容を理事会でどこまで報告されているのか。理事会、事務局までしっかり話は通っているのかとの質問があり。

理事長より、理事会は年5回行ない、各ブロック理事から毎回報告が上がっている。それらの意見を集約し現在も今後も活動を行っていく予定で、理事会と実行委員会での議案は全国高校野球OBクラブ連合のホームページで議事録の掲載を行っている事を説明した。

- 東京都 酒井様より、各都道府県からの案やブロックからの意見を理事会で今後どうしていくか。今後の運営方針として、意見や案の集約は各幹事から理事会なのか理事会から各幹事なのかをはっきりさせるべきではないか。との意見。

理事長よりどちらのパターンもあり得る。各幹事から様々な意見をもらって集約する場合もあれば、こういった総会場で理事会から提案して各幹事に意見

をもらう場合もあると説明した。

戒能理事より、ブロック内ではブロックで意見を出し、その意見を理事会でブロックの理事がしっかりと報告して行く。この形式は変えずに続けて行くべきではないかとの説明があり。

徳島県、浅山様より、徳島県では子供に野球を広める動き、少年へのプロモーションを行っている。連合として野球少年を増やす努力をすべきではないかとの意見があり。

長野県、池口様より、長野県では野球少女も増やす活動もしている。女性に野球を広めようという活動もして行くべきではないかとの意見があり。

富山県、吉田様より、それぞれの都道府県やブロックで出た意見を集約し、何ができる事で、何が出来ないのかをしっかりとまとめる必要があり、委員会などの場を設ける必要がある。そして、金銭的な事も全て含めて事務局が実行して行くべきであるとの意見があり。

議長、事業案については、今後、委員会の設立も視野に入れて継続審議として行く事でご理解を頂き、承認された。

②マスターズ甲子園2019シリーズ申請枠組み合わせ抽選会

③マスターズ甲子園2019シリーズ追加枠確定および組み合わせ抽選会

○追加枠抽選に於いて次の5都道府県に決定した。

福島県・愛知県・三重県・徳島県・沖縄県

○マスターズ甲子園2019大会の組み合わせ抽選会を行い下記の通り決定し承認された。

第1日目（土曜日）

第2日目（日曜日）

第1試合	埼玉県代表	対	岐阜県代表	第1試合	福島県代表	対	宮崎県代表
第2試合	群馬県代表	対	大阪府代表	第2試合	島根県代表	対	徳島県代表
第3試合	鹿児島県代表	対	岩手県代表	第3試合	兵庫県代表	対	沖縄県代表
第4試合	宮城県代表	対	鳥取県代表	第4試合	愛知県代表	対	三重県代表

以上を以って議案の審議が終了したので議長は全議案の承認を出席者に確認し終了を宣言し、理事長の閉会の挨拶の後、16時10分に散会した。

尚、議事の経過並びに結果を明らかにするために、議長である高山が本議事録を作成し及

び総会出席者2名と計3名の署名押印をする。

平成30年12月 2日

議事録作成者 高山伸紀 (神奈川県)



平成30年12月 7日

議事録署名人 野田 誠 (岩手県)



平成30年12月12日

議事録署名人 岩見強志 (広島県)

